「どんな行動が犯罪や非行

防止に繋がるのか」

小田原市立鴨宮中学校

三年 井上 愛苗

非行・犯罪・誹謗中傷、世の中には、沢山の
人々を悲しませる行動が溢れている。まず
非行とは、二十歳未満の男女が犯した犯罪の
ことだ。例えば、少年が窃盗を犯した場合、
犯罪ではなく、非行となる。非行の種類とし
ては、二十歳未満の飲酒、深夜徘徊、暴走行
為などが挙げられる。また、犯罪の種類とし
ては、窃盗、暴行、詐欺などが挙げられる。
主な非行と犯罪の違いとしては、罪を犯した
人が、未成年かどうかというところだ。さら
に、最近の世の中では、芸能人に向けての誹
謗中傷が多いことが話題となっている。芸能
人に向けての誹謗中傷の原因としては、自分
の価値観と相手の価値観の相違から生まれる

ものだと、私は考える。だが、悪口を書いた人は、それが軽はずみの行動だったとしても、SNS中で拡散され、共感者も集まり、それが誹謗中傷となり芸能人に届いてしまう。その誹謗中傷が原因となり、芸能活動を引退したり、死を選んでしまったというニュースも目にするようになった。私は、そのような犯罪や非行、誹謗中傷が一切なくなるのは、正直不可能だと考える。それぞれが違う人間で、一人一人がそれぞれ違う考えを持っているからである。だが決してそれは悪いことではなく、意見が沢山あることで生まれるアイデアもあるからだ。なので、少しでもそのような行為が減るために、自分自身ができることを探してみた。まず私は、直接そのような行動が減ることはないかも知れないと思っただが、学校で配られたチラシに書いてあった、夏休みボランティア体験学習に参加してみた。主な活動内容としては、乳幼児との体操や手遊び、夏祭りイベントの手伝いだった。

普段関わることのない小さい子ども達と関わることで、沢山学べたことがあった。まず意識したことは、小さい子どもと話すときは、目線を合わせて話すということだ。立ったまま話してしまうと上から目線気味にもなるし、小さい子どもから見た時に、威圧感があるかなと思ったので、話すときは目線を合わせて話すことを意識した。そして学べたことは、自分は常に笑顔でいなければならないということだ。笑顔でいることで、係の人にも、小さい子どもにも、また、その保護者までにも好印象を与えることができるし、関わりやすくなるということがわかった。関わりやすくなるという点で、私はあることを思った。関わりやすくなると、関わりが多くなり、後に信頼関係も生まれる。信頼関係が生まれることで、自分のことも相手のこともより深く知ることができるということに。もし自分の身に何かあったときや自分がいけないことをしてしまった時に、その関わりや信頼関係を通

じて、一人で抱え込むことなく誰かに相談することができると思った。例えば、自分が非行行為をしてしまったとき、相談できる人がいれば解決に向けての糸口が広がる。それは、犯罪でも誹謗中傷でも同じことだと思う。笑顔からうまれる信頼関係は、とても大きなものになる。ボランティアに応募したときは、乳幼児と遊ぶボランティアと犯罪、非行などは関係なく、無縁なものだと思っていたが、このボランティアを通して、無縁ではないことに気づいた。また、私は、私たちの身の回りの身近な所には、無縁だと思っても、犯罪や非行、誹謗中傷が少しでも少なくなるようなヒントがいくつも落ちているのではないかと思う。私たち人間がそのような身近にあるヒントを見逃しているだけで、解決につながる糸口は沢山あるのではないか。私はそう考えた。もしそれが本当であるならば、身近にヒントが沢山落ちているのであれば、私たちがそのヒントに気づくことができれば、

世の中の犯罪や非行行為、誹謗中傷は少しずつだが減っていくのではないだろうか。私達は、そのような身近にあるヒントを見逃さないようにする力をつける必要があると思う。その力を身につけるためには、ボランティアに参加したり、地域で行っている活動に行ってみたりなど、人との関わりを大切にしなければいけないと思う。そんなの犯罪などとは無関係だと思うような行動でも、やってみることで学べることや得られることは沢山あるし、そこから結び付けて考えられることも沢山ある。なので私は、これからもボランティアに参加したいし、人との関わりを大切に、その場で生まれた繋がりも大切にしたい。人との繋がりが、犯罪や非行防止に繋がると、私は考える。